

## ILOHA

### ILOHA124 グループワーク 復習問題解説

2018年1月29日

榎本先生の講義に関して、復習問題を作りました。必ずしも講義中に説明していないものも含まれます。

なお、本問題は金子の責任で作成しております。

1. 標準予防策に必要な対策は次のうちどれか。2つ選べ。
  - a 患者に接触する前のアルコールによる手指消毒
  - b 咳嗽・喀痰のない非感染症患者の診察を行う際のサージカルマスクの着用
  - c 非感染症患者の粘膜に接触する際の手袋着用
  - d 非感染症患者の個室隔離
  - e 非感染症患者の診察を行う際のガウンの着用

解答

a,c

解説

標準予防策とは、全ての患者のケアに用いる予防策。

アルコールによる手指消毒は、患者接触前後で実施する。

全ての体液、粘膜に接触する際には、グローブを着用する。

咳嗽や喀痰がある患者の場合、明らかな感染症がなくてもサージカルマスクを着用し、飛沫を予防する。

2. 接触感染予防策が必要な患者は次のうちどれか。2つ選べ。
  - a 下痢が改善後も、CD 毒素陽性が続いている患者

- b ノロウイルスによる胃腸炎が疑われる下痢の患者
- c 排菌していない肺結核患者
- d メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) が喀痰から分離されている人工呼吸器装着中の患者
- e 排菌している肺結核患者

解答

b,d

解説

ノロウイルスによる胃腸炎やディフィシルによる偽膜性腸炎では、下痢症状があれば接触予防策をとる。ディフィシルの場合、CD 毒素が陽性であっても、下痢がなければ接触予防策を解除する。

MRSA の患者では、接触予防策をとる。

結核患者は排菌の有無に関わらず、接触予防策は不要。排菌があれば空気予防策となる。

3. 速乾性アルコールによる手指消毒の順番として正しいのはどれか。
  - a 指先⇒手のひら⇒手の甲⇒指の間⇒親指⇒手首
  - b 指先⇒手首⇒指の間⇒親指⇒手のひら⇒手の甲
  - c 指先⇒手首⇒手のひら⇒手の甲⇒指の間⇒親指
  - d 指先⇒手首⇒指の間⇒手のひら⇒手の甲⇒親指
  - e 指先⇒手の甲⇒指の間⇒手首⇒手のひら⇒親指

解答

a

解説

手のひらを先に合わせるという方法も紹介されているが、片方の指先を消毒後、あまりを

他方に移して、もう片方の指先を消毒する。  
その後は、手のひら、手の甲、指の間、親指  
で最後に手首を消毒するくらいで乾燥するく  
らいがよい。

4. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
(MRSA) に有効な抗菌薬はどれか。2  
つ選べ。
- a リネゾリド
  - b メロペネム
  - c レボフロキサシン
  - d バンコマイシン
  - e アミカシン

解答

a,d

解説

抗 MRSA 薬は、バンコマイシン、テイコプラ  
ニン、リネゾリド、アルベカシン、ダプトマ  
イシンである。

5. 多剤耐性アシネトバクターに有効な抗菌  
薬はどれか。2 つ選べ。
- a コリスチン
  - b アミカシン
  - c メロペネム
  - d チゲサイクリン
  - e シプロフロキサシン

解答

a,d

解説

多剤耐性アシネトバクター（感染症法では薬  
剤耐性アシネトバクターと記載されている）  
の定義は、カルバペネム系、アミノグリコシ  
ド系、キノロン系の 3 系統に耐性となってい  
る。メロペネムはカルバペネム系、アミカシ  
ンはアミノグリコシド系、シプロフロキサシ  
ンはキノロン系である。

大阪市立大学大学院医学研究科 細菌学

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/index.shtml>

